紀女郎、包める物を友に贈る歌一首

七八二番

風高く　辺には吹けども　妹がため　袖さへ濡れて　刈れる玉藻そ

大伴宿禰家持、娘子に贈る歌三首

七八三番

一昨年の　先つ年より　今年まで　恋ふれどなぞも　妹に逢ひかたき

七八四番

うつつには　更にもえ言はず　夢にだに　妹が手本を　まき寝とし見ば

七八五番

我がやどの　草の上白く　置く露の　身も惜しからず　妹に逢はざれば